

コシヒカリの栽培ごよみ(JA米生産基準)

収量構成の目安	
収 量 構 成	目 安
㎡ 当 たり 株 数 (株)	22
1 株 当 たり 穂 数 (本)	18
㎡ 当 たり 穂 数 (本)	396
平 均 1 穂 粳 数 (粒)	70
㎡ 当 たり 粳 数 (百粒)	277
登 熟 歩 合 (%)	87
玄 米 千 粒 重 (g)	22.5
㎡ 当 たり 最 高 茎 数 (本)	528
有 効 茎 歩 合 (%)	75
10 a 当 たり 収 量 (kg)	540

コシヒカリの目標生育量		
	幼穂形成期 (幼穂2mm時)	1回目穂肥時期 (幼穂15mm時)
草丈	72cm	82cm
茎数	470本/㎡	430本/㎡
葉色	3.8	3.6

栽培のポイント
①健苗育成 (十分換気を行い硬い苗を作る) ②70株植えの徹底、3cm植え (茎数の取れにくいほ場では80株) ③初期茎数の確保 ④確実な中干しで適切な葉色に誘導する。 (幼穂形成期に葉色3.8程度) ⑤出穂後20日間の湛水管理の徹底 ⑥収穫まで落水は急がない

水管理のポイント	
	目 安
田植日	5月15日
やや深水管理	5月15日～5月19日
初期除草剤散布	5月15日～5月17日
体系是正剤散布 (初期剤使用の場合)	5月25日～5月29日
体系是正剤散布	5月15日～5月23日
浅水管理	5月20日～6月 5日
軽い田干し (2日程度)	5月22日～5月24日
落水(軽い田干し)	6月 6日
溝切り	6月 8日～6月11日
中干し	6月12日～6月21日
間断かん水	6月22日～7月 9日
飽水管理	7月10日～7月30日
湛水管理(出穂期)	7月31日～8月19日
間断かん水	8月20日～9月 2日
落水	9月 3日～

※中後期除草剤は残草の種類を見て随時散布する

月 日	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月				
	5/15		6/12 6/14	6/27 7/10	7/20 7/31	9/10					
生育期区分	育苗期	田植期	活着期	有効分げつ期	無効分げつ期	稲体組織充実期	幼穂形成期	穂ばらみ期	登 熟 期	収 穫 期	土づくり
水 管 理		深水管理	浅水管理	溝切り、中干し	間断かん水	飽水管理	湛水管理	間断かん水			
栽 培 管 理 の ポ イ ン ト	◎ 雑草が多かったほ場では、刈取後に雑草に応じた除草剤を散布する。 ◎ 稲わらの腐熟を促進するため秋耕を行い、必ず排水溝を掘る。 ◎ シリカロマンは10 a 当たり 100 kg 以上施用する。 ◎ 土壌診断に基づき土づくりの実施。										
	◎ 遅れないようにする。 ◎ 刈取適期表示を目安に刈取を行い、胴割れが発生しやすいので刈										
	◎ 籾の黄化率 85 ～ 90 % 程度が刈取時期										
	◎ フーン時は事前に入水して、品質低下を防ぐ。 ※ただし、ほ場状況に応じて落水時期は調整する。 ◎ 刈取予定日の 5 ～ 7 日前までは間断かん水を行う。										
	落水を急がない										
	◎ 湛水管理を徹底する。 ◎ 胴割米の発生防止とカドミウムの吸収抑制のため、出穂から 20 日間										
	稲体の活力維持										
	◎ 基本防除を徹底する。 いもち病・カメムシ類防除の徹底										
	◎ 穂揃期は 4.3 程度の葉色を目標とする。 ◎ 出穂 7 日前の葉色が 4.0 以下の場合には直ちに追肥を 7 kg / 10 a 施用する。										
	適切な葉色に誘導する										
◎ 2 回目は 1 週間後に行う。 ◎ 1 回目の穂肥は幼穂長 15 mm、葉色 3.6 で行う。											
穂肥は生育に応じて適正量を施用する(分施)											
◎ 幼穂形成期以降は飽水管理を行う。 ◎ 畦畔・農道の草刈りを徹底する。 ◎ 中干し後の水管理は間断かん水を行い、干しすぎない。 ◎ 溝の手直しを行う。 ◎ 茎数が少ないほ場では中干しを遅らせる。特に密苗は注意する。 ◎ 中干しは溝切り後直ちに開始する。											
適切な中干しの徹底											
◎ 溝切りは遅れずに、6 月上旬に行う。 ◎ 高温により藻が発生したり田がワク場合には水の入れ替えを行う。 ◎ 早期追肥は田植後 7 日以内に施す。(全層) ◎ 根の発育を促すため、2 日程度の軽い田干しを行う。 ◎ 促進させる。 ◎ 活着後は浅水管理を行い、日中は止め水で田水温を高め、分げつを ◎ 田植後 4 日間はやや深水管理を行い、活着を早める。											
良質な茎を早く確保する											
◎ 3 cm の浅植えとする。 ◎ 1 株の植付本数は 3 ～ 4 本とする。 ◎ 倒伏防止のため、施肥量を厳守する。 ◎ 荒天時の田植は避ける。 ◎ 株数は坪当たり 70 ～ 80 株植えとする。(茎数の取れにくいほ場では 80 株植え (1 kg / 10 a、50 g / 100 g / 箱) ◎ 高密度播種苗の場合は使用量を遵守する。 ◎ 苗箱施肥はフーンレバード箱粒剤を均一に散布する。(50 g / 箱)											
適切な田植えに努める											
◎ 田植にあわせた育苗計画を立て老化苗にしない。 ◎ 種籾は 1 箱当たり 120 g を播き、苗箱は 10 a 当たり 22 枚 ～ 24 枚を目安とする。 ◎ 浸種初日は水温 12.5℃ を確保し芽出しを確実に行う。											
浸種を徹底してよい苗をつくる											